

熊本保健科学大学教職員のための 生成 AI の利活用に関するガイドライン

1. 生成 AI をめぐる現状

AIの中で、テキストや画像・動画、音楽等を新たに生み出す高度な技術を持つAIは生成AIと呼ばれ、急速に普及しつつあります。生成AIを活用することはわたしたちの生活の利便性や生産性の向上に繋がる可能性があり、保健医療分野を含め多くの変化をもたらすことが期待されます。しかし、その一方、生成AI及びそれをもとに作られたサービスの利活用に関しては様々なリスクも指摘されており、国際的な枠組みの中で利活用の在り方について検討が進められている状況にあります。このガイドラインはそのような状況下で、本学教職員が教育・研究・業務の中での生成AI及びそれをもとに作られたサービスの利活用に関して特に留意すべき事項をまとめ、現時点における本学の考え方を示しています。なお、生成 AI に関しては今後も新たな技術の進歩が見込まれるため、国内外の動向を踏まえながらこのガイドラインは適宜見直していく可能性があります。

2. 生成 AI 及びそれをもとに作られたサービスに関する本学の基本的考え方

本学では、生成AI及びそれをもとに作られたサービスの利活用について一律に禁止することは行いません。日々進歩している保健医療分野の学びと同じように、よりよい教育、研究、業務を目指して新たな知識や技術を学びそれを活用していくことは、本学を大きく発展させることに繋がるためです。生成 AI に関するリテラシーを身につけ、生成AI及びそれをもとに作られたサービスを適切に利活用するため、以下に示す様々なリスクについての留意点を踏まえてひとりひとりがよく考えて行動してください。

3. 全体的な留意点

○情報漏洩のリスクについて

生成 AI に対する質問や指示として入力された情報は、他の誰かの質問の回答に使用される可能性があります。特に個人情報や未発表の研究成果、会議資料のように、厳重な管理が必要な情報を生成 AI に対し入力することで情報漏洩に繋がる可能性があります。第三者に公開できない情報は絶対に入力しないでください。

○著作権等の権利侵害のリスクについて

生成 AI が出力した情報には他人の著作物の内容に類似していたり、そのまま含まれていたりすることがあります。そのため生成 AI が出力した情報を使用し、それを公開することで、意図せずに著作権等の侵害や研究不正に該当する可能性があります。生成 AI が出力した情報を利用する場合は、生成 AI を利用せずに文書等を作成する場合と同様に、各種権利関係の侵害や研究不正に繋がる可能性がないか十分に確認してください。

○誤情報の可能性について

生成 AI により出力された情報には不正確な情報や誤った内容が含まれていることがあります。そのため、生成 AI が作成した情報を鵜呑みにせず、信頼できる情報による裏付けを行って利用してください。

○各ツールの規約等の確認について

生成 AI 及びそれをもとに作られたサービスを利用する場合は、このガイドラインに則って利用するとともに、それぞれに定められている規約等を読み、情報の取扱いなどについて十分に確認してください。

4. 教育における生成 AI の利活用について

学生による生成 AI の利活用に関しては、レポート等の成果物に生成 AI の利用を認めるかどうかをそれぞれの講義で示し、利用を認める場合は「3. 全体的な留意点」で示したリスクについて説明を行ったうえで利用するよう指示してください。また、生成 AI をレポートや課題に用いた場合は、根拠として使用した文献等の出典を明記するのと同じように、どの部分にどの生成 AI を用いたのかを明記するよう指導してください。

近年の生成 AI の飛躍的進歩により、生成 AI が出力する文章と人間が書いた文章を見分けることは判定ツールなどを利用しても難しい状況にあり、教員の課題設定や成果物の評価について工夫が必要になります。例えば、レポートの内容について口頭での質疑応答や小テストを行うことで生成 AI が出力した文章をそのまま使用しただけになっていないかを確認することができます。また、生成 AI が出力した文章に対し、その内容が事実であるのかを資料等を用いて確認するような課題設定を行うことが考えられます。

生成 AI 及びそれをもとに作られたサービスを用いることで、様々な面での効率化を図ることができます。しかし、生成 AI の出力には誤情報の可能性もあること、最終的に確認や判断を行うのは人間であることを認識したうえで、出力された情報を鵜呑みにすることなく、教育力の向上に繋がるよう活用してください。

○教員による教育における利活用の例

・文書作成

(例) シラバスや講義資料の作成にあたり、自分の書いた文章を学生にとってよりわかりやすい表現にする。

(例) 特定の事項についての練習問題やアンケート項目についての例を得る。

(例) データ分析の演習を行うために、より現実に近い仮想データを生成する。

・アイデア出し

(例) グループワークのテーマ設定や具体的な進め方についてのアイデアを得る。

(例) あるトピックに対する講義資料の作成にあたり項目設定の例を得る。

5. 研究における生成 AI の利活用について

上記「3. 全体的留意点」において示したように、生成 AI が出力した文章をそのまま用いることで、盗用や剽窃などの研究不正に繋がる可能性があります。また、未発表の研究成果をそのまま生成 AI の入力として用いることで、情報の漏洩に繋がる可能性があります。研究における生成 AI の利活用に関しては、このガイドラインに加え、所属学会や論文投稿先のルールに従ってください。

○研究における利活用の例

・文書作成

(例) 論文や申請書中の文章をよりわかりやすい表現にする。

(例) ある程度まとまった内容の文章を要約する。

(例) 他言語で書かれた文章の翻訳や校正を行う。

・プログラミング

(例) 特定の内容を実行するためのプログラムコードを生成させる。

(例) 目的に応じた Excel の関数や数式を生成させる。

(例) プログラムコードに誤りがないか、あるいはより効率的にできないかを確認する。

・アイデア出し

(例) 得られたデータに対する可視化(グラフ化)の例を得る。

6. 業務における生成 AI の利活用について

上記「3. 全体的留意点」において示したように、個人情報や会議資料等厳重な管理が必要な情報を入力することで情報の流出や漏洩に繋がる可能性があります。生成 AI 及びそれをもとに作られたサービスの利活用に際しては規約等をよく読み、十分に留意して行ってください。また、生成 AI の利活用には、生成 AI の出力には誤情報の可能性があること、最終的に確認や判断を行うのは人間であることを認識したうえで、業務の効率化や質の向上のために活用してください。

○業務における利活用の例

・文書作成

(例) (機密にすべき情報を除いたうえで)議事録等の報告資料を作成する。

(例) 規程の文章を作成したり、同一の形式に統一したりする。

(例) ある程度まとまった内容の文章を要約する。

(例) 他言語で書かれた文章の翻訳や校正を行う。

(例) 問合せに対して自動応答を行う。

・プログラミング

(例) 目的に応じた Excel の関数や数式を生成させる。

(例) プログラムコードに誤りがないか、あるいはより効率的にできないかを確認する。

・アイデア出し

(例) 特定の問題に対する論点の洗い出しを行う。

(例) 研修のテーマ設定や具体的な進め方についてのアイデアを得る。

7. 終わりに

生成AI及びそれをもとに作られたサービスの利活用は今まさに世界中で拡大している状況です。生成 AI を効果的に利用し、本学教職員が教育・研究・業務に活かしていくためには、活用するためのスキルや生成 AI に関するリテラシーが重要となります。教職員ひとりひとりがこのガイドラインに示したリスク等に十分留意し、適切な活用を心がけてください。

令和6年4月1日 制定

生成 AI 利活用に関する基本的な留意点

【利活用に伴い認識しておく必要のあるリスク】

情報流出・情報漏洩のリスク ・ 権利侵害のリスク ・ 誤情報のリスク

【利活用を行う前に確認しておくこと】

サービスごとに定められている規約等の確認

生成 AI 利活用の可能性

教育における利活用

わかりやすい文章への校正
練習問題やアンケート作成
模擬データの生成
講義資料作成の補助

研究における利活用

わかりやすい文章への校正
他言語の文章の翻訳や校正
目的に応じたコード生成
データの可視化方法の例示

業務における利活用

報告資料の作成
他言語の文章の翻訳や校正
研修のテーマ設定等の提案
問合せに対する自動応答